

2013年度 事業報告

概況

現場を基点に技術革新と社会変革を俯瞰しつつ新たな変革の原動力を生み出すため、自由な論議の中で切磋琢磨できる場を広く提供していくことを基本方針として取り組んだ。定期的な活動である学術総会、春季討論集会を開催した。学会誌『技術革新と社会変革』第6巻第1号、第2号を発行した。会員が議論を深めることを目指して、学会ホームページ上に会員の自由投稿欄「論議の輪」を設けてある。また研究会活動として、9つの研究会が研鑽を重ねた。以上の如く実践的で具体的な活動を展開した。

I. 特定非営利活動に係る事業報告

1. 学術総会の開催

第7回学術総会を以下のように開催した。

日時：2013年9月24日（火）10：00～18：30

会場：お茶の水女子大学

参加者：40名

内容：①奨励賞伝達式：

以下の受賞者に対して本人出席のもと、奨励賞を伝達した。

・活動奨励：御手洗 寿雄氏

今給黎 佳菜氏

②特別講演：3件 講演者 川口 昇氏（株式会社UL ジャパン）
庄司 秀樹氏（東洋システム株式会社）
梅津 憲治氏（大塚化学株式会社）

③活動報告：1件 報告者 横山 哲夫氏（大川原化工機械株式会社）

④一般発表：5件 発表者 須藤 繁氏（帝京平成大学）

高 玲氏（亜細亜大学）

今給黎 佳菜氏（お茶の水女子大学）

金 宝藍氏（東京大学）

松田 弥花氏（東京大学）

⑤企画テーマ「東日本大震災と国際エネルギー情勢の変化がもたらすサプライチェーンの構造の変化」：3件

発表者 須藤 繁氏（帝京平成大学）

小林 三喜雄氏（花王株式会社）

坂下 雅代氏（綜研化学株式会社）

2. 春季討論集会の開催

春季討論集会（2014）を以下のように化学生物総合管理学会と共同で開催した。

日時：2014年3月5日（水） 10：40～19：10

会場：お茶の水女子大学

参加者：86名

テーマⅠ：企業変革はいかに起こるか

テーマⅡ：日本の化学物質管理政策は産業競争力を阻害していないか

発表者が発表した後、討論を進めた。発表者と演題は次の通り。

テーマⅠ関連

引地 聡氏（花王株式会社）

花王における研究開発戦略と企業変革

別所 信夫氏（東京理科大学大学院）

新規事業開発がリードする企業変革－化学系企業を例としての考察

倉内 憲孝氏（住友電気工業株式会社）（特別講演）

技術革新と企業変革－住友電工の事業多角化の軌跡

須藤 繁氏（帝京平成大学）

コンビニエンスストアの発展過程と社会技術革新

テーマⅡ関連

永里 賢治氏（化学生物総合管理学会）（発表中止）

欧州 REACH 規則にみる欧州産業競争力の強化と日本への影響

－フタル酸エステルを事例として

増田 優氏（お茶の水女子大学）（代わりの発表）

化学物質の総合管理から総合経営へ－主体者を官から民への大転換

星川 欣孝氏（化学生物総合管理学会）

国際競争力の維持向上に資する化学物質総合管理法制の在り方

津田 洋幸氏（名古屋市立大学）

国際がん研究機関（IARC）のモノグラフを巡る日本の実態

－不十分な貢献と不正確な理解

榎 尚史氏（化学生物総合管理学会）

化学物質総合管理に関する企業活動の評価から見た今後の課題

3. 講演会の開催

第7回学術総会(2013年9月24日)において、奨励賞記念講演は行わなかった。

4. 学会誌『技術革新と社会変革—現場基点—』の発行

(1) 第6巻1号(2013年8月発行) 総ページ 46 ページ

総合報文：1件 溝口 忠一氏

『粉体技術の発展と期待—戦後の金属鉱山選鉱技術から
新エネルギー燃料開発へ—』

報文：2件 今給黎 佳菜氏

『近代日本陶磁器業における情報ネットワークの発展』
都甲 由紀子氏他

『染色実習をとおして生活を支える科学技術を伝える
教育実践』

報告：1件 御手洗 寿雄氏

『東海大地震を想定したリスク管理』

(2) 第6巻2号(2013年12月) 総ページ 38 ページ

報文：1件 今給黎 佳菜氏他

『リスク管理人材育成基盤としての「知の市場」
—10年間の発展史とこれから—』

報告：1件 濱田 賢良氏

『噴霧乾燥装置の特徴と設計の実際』

5. 研究会活動

(1) 事故事例研究会

2011年6月～2013年5月に活動したⅡ期については終了し、引き続きⅢ期の活動に入った。9月24日の学術総会においてⅡ期・Ⅲ期の活動報告が行われた。

(2) 韓国学教育研究会

2013年4月～2015年3月の予定で、研究会活動を展開した。

(3) 石油サウジアラビア教育研究会

2013年10月～2015年3月の予定で、研究会活動を展開した。

(4) 法制教育研究会

2013年10月～2015年3月の予定で、研究会活動を展開した。

(5) 社会技術革新学基礎教育研究会

2013年10月～2015年3月の予定で、研究会活動を展開した。

(6) 社会技術革新学会教育研究会

2013年4月～2015年5月の予定で、研究会活動を展開した。

(7) リチウム電池教育研究会

2013年10月～2015年3月の予定で、研究会活動を展開した。

(8) 多様性基礎教育研究会

2013年10月～2015年3月の予定で、研究会活動を展開した。

(9) 金融教育研究会

2013年10月～2015年3月の予定で、研究会活動を展開した。

6. 知見の集大成、体系化に関する事業

今年度中の活動実績はなかった。

7. 教育・普及・啓発に関する事業

「知の市場」の講座運営に協力した。

(1) 「知の市場」の紹介をニュースレターで行った。

(2) 学会または研究会は以下の科目について「知の市場」の連携機関になり、関係する会員が講師として協力した。

科目 No.	科目名	副題	開講場所	開講時期
社会技術革新学会				
CT534	サウジアラビア 特論	生活の安全保障の視点から サウジアラビア石油の安定 共有の日本にとっての意味 を考える	お茶の水女子大学	前期
ET533	新国際石油論	石油供給構造の変化がもた らす政治的・経済的意味を 検証する	関東化学ビル	前期
GT712	国際企業特論 1	事業のグローバル化と石油 化学産業における基本技術	三井別館	前期
BK515	社会技術革新学 事例研究 1	リチウム 2 次電池開発の歴 史に見る技術革新と経営革 新の成否の要因	梅田阪急ビルオフ ィスタワー	前期
ET471	産業安全論	競争力を生み出す安全な産 業と社会環境の構築を先導 する経営者の育成	日本リファイン 東京本社	後期
韓国学教育研究会				
CT721	韓国学 1	経済・社会から文化・歴史ま で若者が語る韓国の姿	お茶の水女子大学	後期

石油サウジアラビア教育研究会				
ー	多様性論	サウジアラビアとブータンの社会における経験を語る	大分大学	後期

(3) 以下の講座について研究会は知の市場の連携機関になり、2014年度開講に向けてシラバスを検討・作成した。

科目 No.	科目名	副題	開講場所	開講時期
石油サウジアラビア教育研究会				
CT534	サウジアラビア特論	生活の安全保障の視点からサウジアラビア石油の安定共有の日本にとっての意味を考える	お茶の水女子大学	前期
ET535	資源・エネルギー・安全基礎論	技術革新と社会変革に深く係る資源・エネルギーとリスク管理のための社会的規範を巡る世界の動向を語る	東京工業大学 大岡山キャンパス	前期
ET533	新国際石油論	石油供給構造の変化がもたらす政治的・経済的意味を検証する		後期
法制教育研究会				
ET572	コーポレート・ガバナンス	国際比較の視点からみた株式会社の組織の運営と課題	日本リファイン 東京本社	前期
CT574	法学入門	実践的考察を通じたリーガルマインドの涵養	お茶の水女子大学	後期
社会技術革新学基礎教育研究会				
UT516	社会技術革新学基礎論	社会変革と技術革新の歴史を検証し付加価値を生み出すイノベーションの真髄を探る	お茶の水女子大学	前期
社会技術革新学教育研究会				
GT712	国際企業特論 1	多様化する化学産業における基本技術と事業のグローバル化	三井別館	前期

リチウム電池教育研究会				
BK515	社会技術革新学 事例研究 1	リチウム 2 次電池開発の歴史に見る技術革新と経営革新の成否の要因	東京駅前カンファレンスセンター	前期
多様性基礎教育研究会				
	多様性論	サウジアラビアとブータンにおける経験をもとに社会の多様性を論じる	大分大学	後期
金融教育研究会				
CT541	金融特論 2	金融におけるリスクとリーマンの正体を探る	お茶の水女子大学	後期

8. 講習およびセミナーの開催

今年度の活動実績はなかった。

9. その他

(1) 自由投稿欄「論議の輪」の活用

2011 年 3 月にホームページの投稿欄を「論議の輪」としており、個人の意見やテクニカルレポートなどの紹介に活用されることが期待される。2013 年度は投稿件数が 5 件であった。投稿者とタイトルは以下のとおり。

社会技術革新学会有志・化学生物総合管理学会有志

「国際競争力の向上に資する情報基盤の構築に必須な化学物質総合管理のための法制と一元的な所管省庁の整備」

渡辺 和子氏「バージニアからの手紙 第 1 回 アメリカの歴史の事始め」

渡辺 和子氏「バージニアからの手紙 第 2 回：不思議な生態を持つ 17 年蟬」

渡辺 和子氏「バージニアからの手紙 第 3 回：シャーロットビルとバージニア大学」

社会技術革新学会有志・化学生物総合管理学会有志

「経済産業省の産業構造審議会の審議に問う—国際競争力を阻害する分立・分散的な化学物質管理政策の是正を一—」

(2) 奨励賞制度

選考の対象として、学会誌投稿、技術革新と社会変革に資する活動や、それらに係る教育の発展に資する活動として、2013 年 6 月の第 22 回理事会で奨励賞候補者を審議した。

最終的に以下 2 名に決定した。

- ・御手洗 寿雄氏
- ・今給黎 佳菜氏

奨励賞伝達式を 2013 年 9 月 24 日の第 7 回学術総会で行った。

II. 管理・運営に関する報告

1. 通常総会（第 8 回）

開催日時：2013 年 6 月 21 日(金)

会場：お茶の水女子大学

主要議案：・定款の変更の件

- ・2012 年度事業報告および決算の承認の件
- ・2013 年度事業計画（案）および予算（案）の承認の件
- ・役員を選任の件

2. 理事会

第 22 回から第 25 回まで 4 回開催された。

(1) 第 22 回 2013 年 6 月 5 日（水）

主要議案：・定款の変更の件

- ・2013 年度事業計画および予算の承認の件
- ・2012 年度事業報告および決算の承認の件
- ・役員を選任の件
- ・通常総会の開催と議案決定の件
- ・研究会細則の変更の件
- ・奨励賞受賞者の選考ならびに決定の件

(2) 第 23 回 2013 年 6 月 21 日（金）

主要議案：・理事長の互選の件

- ・企画運営委員会委員及び編集委員会委員の委嘱に関する件

(3) 第 24 回 2013 年 10 月 9 日（水）

主要議案：・編集委員会委員の委嘱に関する件

(4) 第 25 回 2014 年 3 月 14 日（金）

主要議案：・2014 年度活動計画（案）及び予算（案）承認の件

3. 監査

2013 年 5 月 21 日に前年度の業務執行状況および会計処理状況についての監査を実施した。適正であるとの監査結果であった。

4. 企画運営委員会

4 回開催し、学会の運営に関して具体的な施策を企画、立案するとともに業務の推進、調整を行った。理事会と同時開催の形で開催した。

2013 年 6 月 5 日（水）

2013 年 6 月 21 日（金）

2013 年 10 月 9 日（水）

2014 年 3 月 14 日（金）

5. 編集委員会

Eメール臨時編集委員会を活用しながら適宜開催し、学会誌の編集方針や内容の検討を行った。学会誌『技術革新と社会変革』第6巻1号を2013年8月に、第6巻2号を2013年12月に発行した。

6. 広報活動

(1) ホームページ

学会のPRツールとして、ホームページを開設しており、適宜更新作業を行った。

(2) ニュースレター（会員宛て連絡ツール）

No.83～No.97まで15回配信した。（2012年度は13回）

7. 会員動向

2013年度の会員数の増減は下表のとおり。

	2013年				2014年
	4月1日	変更	入会	退会	4月1日
正会員	32		2	4	30
学生会員	2		4		6
賛助会員	2			1	1

賛助会員名簿 2014年4月1日現在（入会順、敬称略）

日本化学工業株式会社

8. 運営資金状況

当学会は、年度内実収入を会計処理基準にしている。活動内容を充実させること、大学研究室への過度な依存を解消していくことを念頭に置きながら支出管理を行った。その結果、2012年度は収入700,253円に対して323,528円の支出となり、当期としては376,725円の余剰となり、次期へ繰り越すこととなった。

※その他の事業（収益事業）については、実績はなかった。

以上